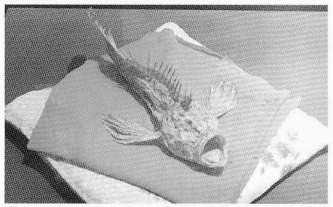
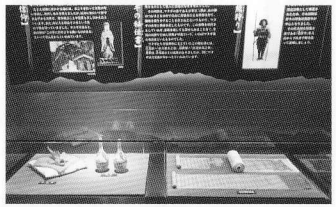
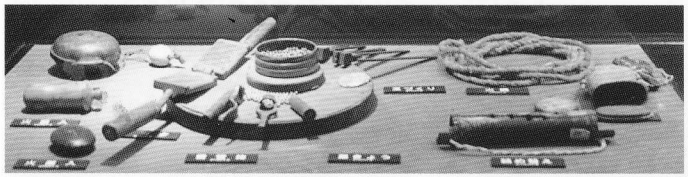
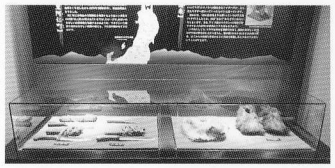
館内展示品のご案内









阿仁マタギ

北秋田市阿仁地域は、秋田県の中央に位置し、36,891haと広大な面積を有し、その内96%が山林に覆われています。 山深い地域で生活した人々は、狩猟に従事し、熊の胆、血、骨などを薬品として加工し、また、毛皮の行商を全国的に広めて生計をたててきました。

マタギには厳しい掟、マタギ独特のことば、信仰があって、狩猟に出る際には神事を行って身を清め、危険防止や狩猟の方法など綿密な計画を立て、神仏と自然の理法に従って、生命を守り生活を営んできました。

これがマタギという人たちです。阿仁地域には、根子マタギ、比立内マタギ、打当マタギの種族がありました。

熊の巻狩り

マタギの猟の季節は秋から春にかけておこなわれ、野うさぎや現在は天然記念物に指定され獲ることができないカモシカなど、さまざまな獲物は貴重な収入源となりました。その中でもマタギたちにとって最高の獲物は、熊。そして晴の舞台は、やはり熊の巻狩りでした。通常巻狩りは５人から30人位の人数で行われます。

シカリ（頭領）の指示に従いマッパ（獲物を仕留める係）と勢子（獲物を追う係）に分かれ、狩りを行っていました。（下記の図参照）